

# 弘前城かわら版

## Vol.17 [令和8年6月15日]

史跡弘前城跡では、史跡内にある重要文化財の天守や城門、櫓<sup>やぐら</sup>の保存修理工事を進めており、令和8年度は天守曳戻し工事のほか二の丸東門と北の郭北門の保存修理工事を実施しています。今号では、弘前城天守の特徴について紹介します。

### 1. 防御のための工夫

天守には、防御の為に様々な工夫が設けられています。

#### ①石落とし（写真1赤枠）

石垣を登る敵に対して石を落とす仕掛けといわれています。弘前城では天守（東面・南面）にのみ設けられており、出窓状になっています。

#### ②狭間（写真1黄枠）

弓や鉄砲で攻撃するための壁穴です。弘前城天守の狭間は縦に長い長方形であり、弓を使用する矢狭間と考えられます。天守の南面と東面は二の丸方向であり、外から来る敵を想定して窓は設けず狭間のみを設けています。一方、北面と西面は本丸内を向いているため、狭間を最小限にして採光のための窓を多く設けています（写真2・3）。

#### ③土壁の中身

防弾のために、土壁の外側と内側の間の空間に石などをに入れて耐久性を高めた壁で、太鼓壁とも呼ばれています。弘前城天守では1階のみこの構造となっています。

参考文献：三浦正幸2022『図説 近世城郭の作事天守編』原書房



【写真4】弘前城天守内部1階の東面土壁（右上）と壁の構造（左下）



【写真1】弘前城天守の石落とし・狭間



【写真2】弘前城天守の窓(西面)



【写真3】弘前城天守の狭間(東面)

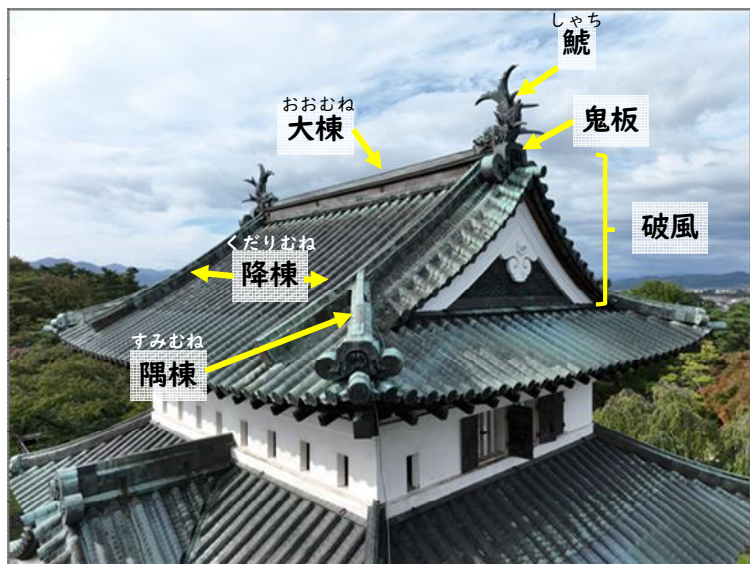
## 2. 弘前城天守の屋根

弘前城の天守と櫓・城門では屋根妻側の壁（破風）などの仕上げが異なります。

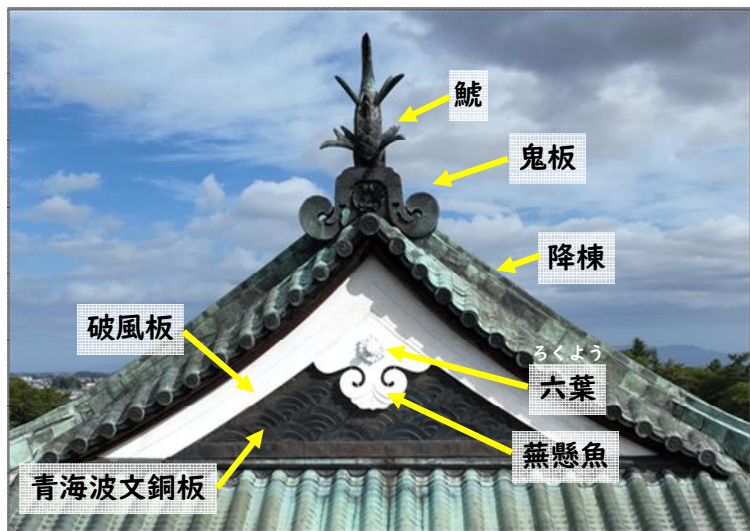
櫓・城門の破風は、妻壁は北の郭北門が無地の板張り、他4棟が木連格子（狐格子）です。破風板や蕪懸魚は白木のままです。

一方、天守の破風は、妻壁に青海波文銅板を張り、破風板や蕪懸魚には白漆喰塗（塗籠）を施すなど、装飾性を高めています。このことから、天守は特別な意味を持つ建造物であり、藩主の権力や城下の繁栄を示す象徴的な建造物であるということがわかります。

参考文献：三浦正幸2022『図説 近世城郭の作事 天守編』原書房



【写真4】天守の屋根（北東から）



【写真5】天守の破風（南面）



【写真6】天守の出窓と破風（東面）



【写真7】天守出窓妻壁 青海波文銅板



【写真8】二の丸辰巳櫓3階破風（東面）



【写真9】二の丸東門2階破風（東面）



【写真10】北の郭北門2階破風（北面）

【発行】弘前市観光部公園緑地課弘前城整備活用推進室

〒036-8356 青森県弘前市大字下白銀町1番地

電話：0172-33-8739 FAX:0172-33-8799 E-mail：kouen@city.hirosaki.lg.jp